

令和4年
3月25日

病害虫発生予報 4月号

茨城県病害虫防除所

機械での転落・転倒・はさまれなど農作業事故が増加する季節です。
危険箇所を確認し、余裕を持った作業を行いましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：アザミウマ類	1
促成トマト：葉かび病、灰色かび病	1
促成キュウリ：うどんこ病	2
春ハクサイ：軟腐病	3
○麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！	3

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、半促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ、春レタス	4
○サツマイモ基腐病の防除対策（採苗、植え付け）	5
【防除所レポート】チャバネアオカメムシの越冬状況（令和4年2月調査）	6
○水稻における紋枯病の防除対策について	7
○イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除について	7

II. 今月の気象予報 8

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>

フェロモントラップデータ随時更新予定



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、寄生花率（本年値 4.0%、過去5年平均値 1.4%）、発生地点率（本年値 50%、過去5年平均値 18%）ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、花をよく観察し、発生の少ないうちに防除を徹底する。気温の上昇に伴い、密度が急激に増加するため注意する。
- ② 薬剤散布は、十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成トマト

1. 葉かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病度^{*}（本年値 2.2、平年値 0.4）、発生地点率（本年値 30%、平年値 7%）ともに平年より高い。

^{*}発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 抵抗性品種であっても発生することがあるので注意する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ④ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。

(トマト 続き)

2. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病株率（本年値 2.4%、平年値 6.6%）は平年並～やや少なく、発生地点率（本年値 30%、平年値 34%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

促成キュウリ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病葉率（本年値 7.5%、平年値 5.5%）は平年並～やや高く、発生地点率（本年値 40%、平年値 45%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年春先から発生が増加し、多発すると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

春ハクサイ

1. 軟腐病

[予報内容]

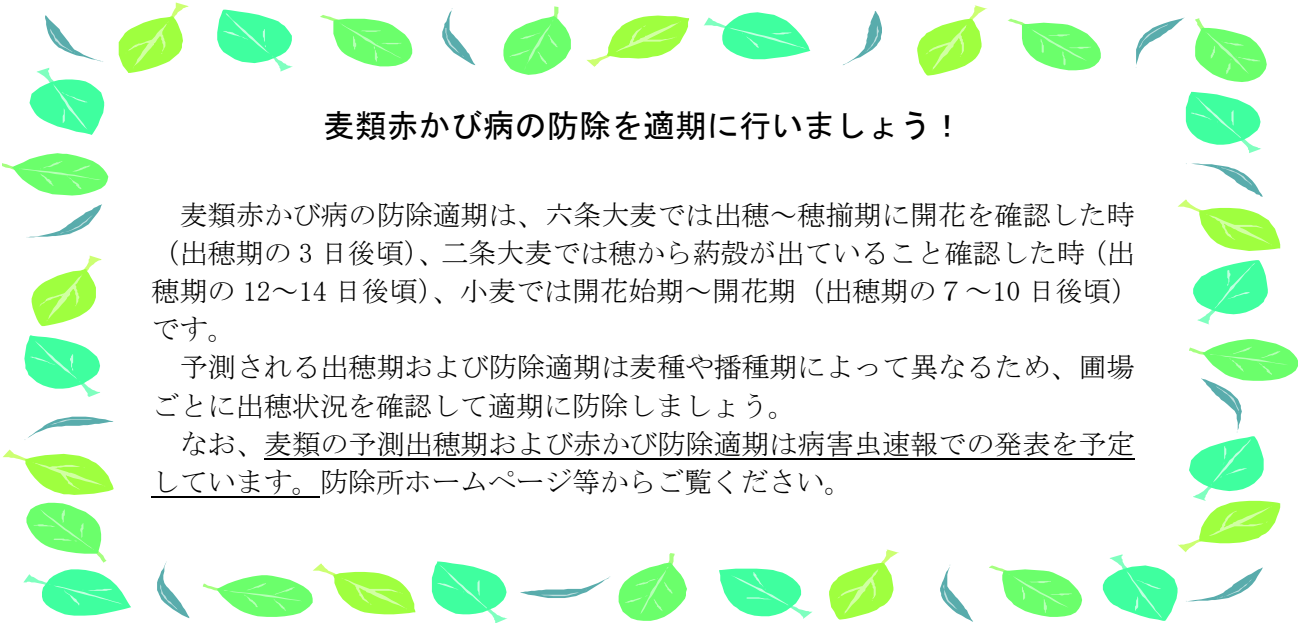
発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病株率（本年値 1.2%、平年値 0%）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 20%、平年値 0%）は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 薬剤散布は、予防散布を主体とし、既に発生が認められる圃場では、被害が拡大しないよう薬剤散布を行う。
- ② 風雨が多いと発生が助長されるので、強風を伴う降雨の後は、防除を徹底する。
- ③ 本病の病原菌は傷口から感染するため、管理作業で葉等に傷をつけないようにする。特に降雨前後の作業時には十分注意する。
- ④ 被害株は伝染源となるため、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- ⑤ 薬剤散布は、収穫前日数、使用回数等に十分注意し、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。



麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

麦類赤かび病の防除適期は、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時（出穂期の3日後頃）、二条大麦では穂から蒴殻が出ていること確認した時（出穂期の12～14日後頃）、小麦では開花始期～開花期（出穂期の7～10日後頃）です。

予測される出穂期および防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除しましょう。

なお、麦類の予測出穂期および赤かび防除適期は病虫害速報での発表を予定しています。防除所ホームページ等からご覧ください。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	3月中旬現在、平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：平年並 ～やや多い	3月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：やや少ない	3月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。 気温の上昇に伴い、増殖が速くなるので注意する。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。
	斑点病		
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	3月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
半促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。
	アザミウマ類		
促成トマト	コナジラミ類	発生量：平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。
促成キュウリ	べと病	発生量：やや少ない	3月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	退緑黄化病	発生量：—	3月中旬現在、一部圃場で発生を認めている。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。
春レタス	菌核病	発生量：平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。

サツマイモ基腐病の防除対策（採苗、植え付け）

本病は発生すると防除が難しく、被害が拡大するおそれがあります。侵入防止と早期発見に努めましょう。

[病気の特徴]

糸状菌（カビ）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ（葉や茎の残がい）等が伝染源となる。見かけ上は健全な苗やイモでも保菌している可能性があり、注意が必要である。

[防除対策]

<作業にあたって>

- ・発生地域から持ち込まれたコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、作物の残さや土をほ場に持ち込まないようにする。
- ・作業するほ場ごとに、農機具や長靴等についた土をよく落とし、水でよく洗浄する。
※コンテナや農機具、長靴等の洗浄は、ほ場の近くでは行わない。

<ほ場の準備>

- ・排水の悪いほ場は発病しやすいため、明きょ設置や耕盤破砕、枕畝の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

<苗の植え付けにあたって>

- ・基腐病に限らず、無病の健全な苗を用意して植え付ける。

<採苗時の注意点>

- ・採苗に使うハサミはこまめに洗浄、消毒を行い、地際から5 cm以上の位置で切り取る。
- ・採苗した苗は、採苗後速やかに苗消毒を行う。
※苗消毒用の薬液は、使用当日に調製し、翌日以降に持ち越さない。
※苗消毒の薬剤は、植え付け前1回限りの使用となるので遵守する。
- ・切り苗を購入するときは、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

<植え付け時：侵入に備えた対策>

- ・ほ場ごとに、①植え付けた苗の苗床の場所、②採苗日、③ウイルスフリー苗などの購入先を記録しておく。

※本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取り等を行わず、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。

チャバネアオカメムシの越冬状況（令和4年2月調査）

ナシ、カキ、リンゴなどの重要害虫であるチャバネアオカメムシの越冬数の調査結果をお知らせします。

本年2月上旬に山林の表層土を含んだ落葉を1地点当たり30リットル採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬数を調査しました。落葉の採取は水戸市、石岡市、常陸太田市、笠間市、つくば市、桜川市、行方市、鉾田市、小美玉市、茨城町の合計42地点で行いました。

その結果、越冬成虫数（本年値2.7頭、平年値2.4頭）は平年並からやや多く、越冬地点率（本年値67%、平年値41%）は平年よりやや高くなりました（表）。

なお、本年を含む過去11年間の越冬状況の推移をみると、越冬成虫数・越冬地点率ともに多い年と少ない年を交互に繰り返しており、本年は多い年にあたります（図）。そのため、越冬世代成虫の果樹園への飛来数（4～7月）は、平年よりやや多いと予想されますので、注意してください。

また、病虫害防除所では果樹カメムシ類について、予察灯調査（4～10月）や、サクラにおける発生量調査（4～5月）を行うので、今後発表する情報を参考にしてください。

表 チャバネアオカメムシの越冬状況

調査項目	令和4年2月		平年
	調査値	順位 ²⁾	調査値
越冬成虫数(頭) ¹⁾	2.7	4位	2.4
越冬地点率(%)	67	2位	41

1) 成虫数/落葉30リットル当たり

2) 本年を含む過去11年中の順位

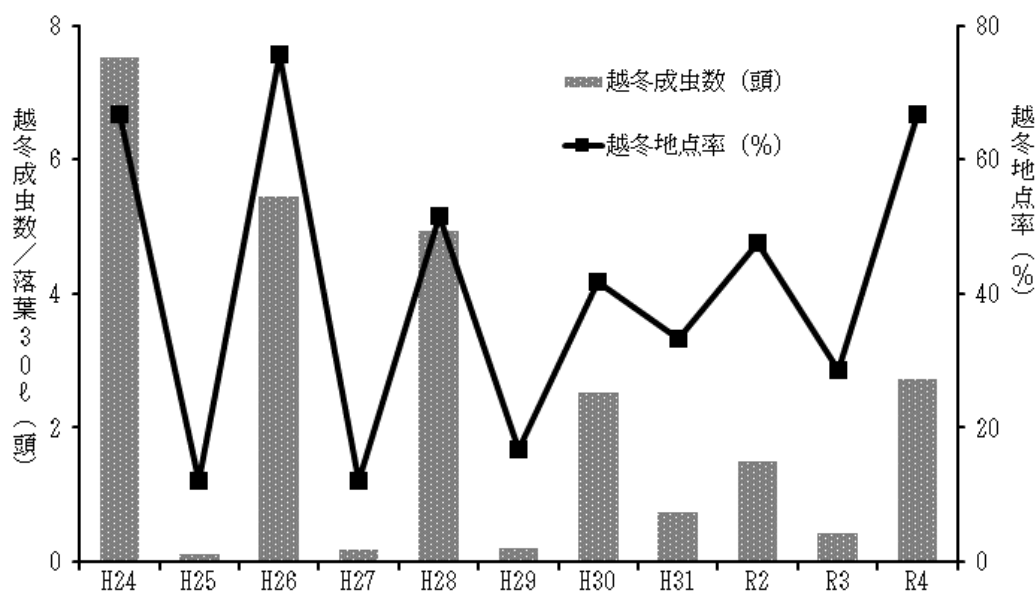


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫数及び越冬地点率の年次変動

水稻における紋枯病の防除対策について

近年、病害虫防除所が調査している水稻圃場において、紋枯病の発生が多い傾向にあります。紋枯病は、イネの病斑上に形成された菌核が圃場にとどまり次作の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。近年、発生が認められている圃場では特に注意して対策を行いましょう。

[特徴]

前年の被害株や畦畔等の罹病雑草に形成された菌核で越冬し、伝染源となる。菌核は代かき時に水面に浮上し、株元に漂着する。気温が上昇し、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長して葉鞘内に侵入し始め、楕円形病斑をつくる。本病にかかると、下葉からしだいに枯れ上がり、稲の茎が弱くなって倒伏しやすくなる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 代かき時の浮遊物に菌核が混入しているので、畦畔沿いにたまったごみを取り除き、適切に処分する。
- ② 常発圃場では育苗箱施用剤を使用する。
- ③ 窒素肥料の多用を避け、過繁茂にならないようにする。

イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除について

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、多発すると減収する病気です。発病してからの治療はできないため、ヒメトビウンカの防除が重要です。

本病は、平成 26 年頃以降、県西地域を中心に発生が多くみられています。

近年、県西地域及び県南の一部地域において保毒虫率が高い状態が続いており、本年の調査結果でも、保毒虫率が高い地点が認められています。引き続き、対策の手を緩めず、ヒメトビウンカの防除を徹底する必要があると考えられます。

今後も、ヒメトビウンカを対象とした薬剤の育苗箱施用による防除対策を行いましょう。なお、第 1 世代成虫は 6 月頃に本田に侵入するので、育苗箱施用剤は効果の長い薬剤を選択しましょう。

※ヒメトビウンカのイミダクロプリド（IRAC コード：4A、主な商品名：アドマイヤーCR 箱粒剤）に対する薬剤感受性が低下傾向にある地点が認められていますので、前作等で同コードの薬剤の効果の低下が疑われた場合は、別コードの薬剤の使用を検討してください。

また、育苗箱施用を行わなかった場合や、施用しても本病の発生が多い地域では、6 月中下旬頃のヒメトビウンカ幼虫を対象とした本田防除が有効です。

なお、5 月下旬発表予定の病害虫発生予報 6 月号で本田での防除適期等の情報を提供する予定です。

(令和 2 年 12 月 24 日発表 病害虫発生予報 1 月号 p3-4 防除所レポート参照)

(令和 4 年 3 月 23 日発表 令和 3 年度病害虫発生予察注意報第 3 号参照)

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 3月26日から4月25日)

気象庁(3月24日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	40	50
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 3月26日(土曜日)から4月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 4月2日(土曜日)から4月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 4月9日(土曜日)から4月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(令和2年4月24日発表)の防除所レポート参照